

# 第16回阿南市子どもフェスティバル 「ある」のに「ない」？不思議なマジカルウォールを作ろう！ 実施報告

常三島技術部門

情報システムグループ\* ものづくりグループ\*\* 管理運営グループ\*\*\*

横山 智弘 (Tomohiro Yokoyama)\*

齊原 啓夫 (Hiroo Saihara)\*

河村 勝 (Masaru Kawamura)\*\*

井上 久美子 (Kumiko Inoue)\*\*\*

酒井 仁美 (Hitomi Sakai)\*\*

## 1. はじめに

第16回阿南市子どもフェスティバルが『みんなの笑顔広がれ！見てさわって楽しくチャレンジ！！』をテーマに開催されることを請け、徳島大学からは「ある」のに「ない」？不思議なマジカルウォールを作ろう！を出展したので、報告する（図1）。



図1 当日の様子

## 2. 開催日及び会場について

開催日：平成30年10月28日(日)9:30-14:00

場所：阿南市スポーツ総合センター  
(サンアリーナ)

## 3. 実施内容

目には見えないが、格子状の軸を平行に持ち、特定方向のみの光を通す偏光シートを組み合わせることで、中央に黒い壁が見えるが、そこにストローを通して壁にぶつかることなく貫通する不思議な箱（図2）を作成してもらった。また、作品は作りやすさと安全性を考慮して偏光シートを貼り付ける窓枠は予め切り抜いておいた。



図2 マジカルウォールの完成品

## 4. まとめ

当ブース体験者数は、108名で、低学年から高学年まで幅広い年齢層の方々が体験してくれた。体験者の中には、科学体験フェスティバルのリピーターもいた。

また、実際に見える黒い壁をストローが通り抜ける様に、参加者のみならず保護者の方からも驚きの反応があった。作品に使われている偏光シートを生活に身近な携帯電話の上に重ねて、角度を変えることで画面の色が変わったり、真っ暗になったりすることを確認してもらい、偏光シートが携帯電話やパソコンなど身の回りの電子機器に使われていると説明することで、科学をより身近に感じてもらえたのではと思った。

## 謝辞

会場設営及び広報活動にご尽力いただきました阿南市子どもフェスティバル実行委員会並びに阿南市教育委員会生涯学習課の皆様にお礼申し上げます。